

西表島船浮のシンガーソングライター 池田 卓さんに聞く

島に暮らすということ

最近は本土でのイヘントが多く通
常朝の7時に自分の船で船浮を出て、
午後3時に東京に着いてます。これだ
け交通手段等が充実すれば、全く僕は
不便を感じていません。

毎 年4月に開催している「船浮音祭
り」に今年は680人も来てくれ
ました。普段、船浮に来てくれるのは
一日五、六名かな。

祭り当日は、対岸の白浜港からチャー
ター船を含め、四隻がピストン運航し
て、あとは石垣から200名乗りの直
行便が来ますね。西表ではバスも足り
ないし、大変ですね。難しいです。

歌 手としては、2000年にデビューして今年で十四年目になります。

歌手を目指すようになったのも、いざなは船浮に住みたくて、何か持つて帰れるものをやりたいなっていうのがあつたんです。自分の中にあるものだ

本当に「船浮音祭り」をきっかけに僕は船浮を知つてもらいたくて、一番は観光客もそうですが、周辺離島の人にしてもらいたいお祭りでもあるんですよ。（船浮って近くで遠いというか、来たことない人が多いので。）

それに、船浮を知っていただけると、西表の民宿の人からも、何かのときに紹介してもらえますし、あそこの海はきれいだよって言つてもらえると思います。

「船浮音祭り」には、なかなか西表では見られないような人をゲストに招いています。子供が行きたいって言うから親も引っ張られて行くかなって思つ



西表島には、陸続きでありながら陸路がないために、船でしか行くことが出来ない船浮と言つ集落があります。生まれ故郷の西表島船浮に暮らすシンガーソングライター池田卓さんは、島への思いを歌にして全国各地で音楽活動するだけでなく、ご両親と一緒に海運業や観光業もしています。池田さんに島での仕事や生活などの魅力を語ってもらいました。

てくれればいいと思います。

開催時期を4月の第3週末にしたの

も狙いかあにて伊平屋のムロンテイ
トマラソノ二か所の祭りは全部お客

さんがない時期なのを見て、南風（ぱ

いかじ）に変わつて過ごしやすいうり

ずんの季節の一番いい時期に来てもら

志ないのはもったいないと考ふ。この

船浮海運は、僕が小さいころから父

が運航していたので、小学校の文集に

も「将来は船浮海運の船長」と書いた

ぐらいてすけど、當時は本当に知られていなくて、一日一人か二人来るか来る

ないかという状況でした。

船渡しでは飯が食えないから民宿も

しながら、陸路がつながっていないこ

の木は、この船を止めたくなつて、

て、ずっと船を走らせてきました。

僕が小学校1年生の時に会社組織になつて国の離島航路補助で助けてもら

えるようになりましたが、それまでは本当に大変でした。

今でこそ、こういう何もないところが好きな方も増えてきて、インターネットが普及したことでも船浮にもここ最近は来られる方も多くなって、今は県外の観光客が七、八割です。一方、県内的人は身近なため、いつでも行けると思っていますのか、なかなか離島に行かないですよね。

最近は、島の人も結構乗っていて、

この辺では一家に一隻の船はあるけど、年配の方や、ガソリン代の高騰により、定期船の方が安いという人もお

船浮海運の定期船「ニューふなうき」



ります。

それに、僕が島を出ている間に浮き桟橋ができてフラットになり船の乗り降りが楽になりました。

昔は大潮の干潮時には、もうじいちゃん、ばあちゃんの乗り降りや荷物の積みおろしが大変でした。

船 浮海運は、親父と僕と、対岸の上原に住んでいる船長さんと事務員さんの4人で運営しています。

島に帰ってきて4年目で、小型船舶

免許と船員手帳も取得し、操船もできるのですが、今は係留のためのロープを取りに行くのが仕事で、使うガソリンの量とエンジンの仕組み、航路とかいろんなことを勉強中です。

免許は沖縄水産高校で取得し、夏休みなどは親父の手伝いをしていました。船や海のことは小さいときから習っていたので免許取得は簡単でしたね。

沖縄水産高校では野球をやっていました。学科は海洋科じゃなくて総合学科でしたが、それでもいろいろ免許が取れるので水産高校はやっぱりいいですね。

いづれは社長として頑張っていかなければと思いますが、船浮にいない日もあるので船長には多分難しくて、僕の場合は宣伝係という感じです。

僕が何で島に帰ってきたかっていうと、海運業の跡継ぎは親父がリタイア

した後でもできるんですけど、今は空いた時間で、たけのこをとつて、イノシシを捕りに行って、イカや魚を釣つたり、貝を探つたり、ここでしか

いるんです。イノシシの罠の仕掛け方は全然レベルが違うんですよ。山の道も昔はたくさんあって、ちょっと入れば迷いますけど、親父を追つて歩きながら覚えていました。

そのため、親父が元気なうちにと、親父が六十才のときに歌手活動がちょうど十周年だったの帰つてきました。歌は十年で土台はできているはずだから、平日はここで親父と修行をしながら、ここからちょくちょく歌いに行けばいい。今ちょうど自分が描いたとおりの日々で、充実しています。

今、船浮には四十人住んでいて、十人弱は先生で、それから真珠の養殖と海んちゅと船浮海運に、あとは観光業ですね。民宿も2軒あります。

仕事はいっぱいあつたほうが安定しています。

ますし、今は農業を始めたいなと思つています。

昔 は山やイダの浜まで全部畑で、米

ければと思いますが、船浮にいない日もあるので船長には多分難しくて、僕の場合は宣伝係という感じです。

僕が何で島に帰ってきたかっていうと、海運業の跡継ぎは親父がリタイア

を発揮するのもお年寄りだし、そういう祭りを廃れさせないためにもと思つて、去年から豊年祭に使う分の米を作っています。

それから、はちみつとコーヒーもつくり始めました。普通の野菜を船浮で作つても輸送費や鮮度の面で不利なの

で、保存が効いて、船浮産ということが価値になるものをと考えたんです。

インターネットなどで調べているん

ですね。5万円位で何万匹ってハチと箱を一式買って、初め2ヶ月ぐらいは順調で蜜もつくっていたのに、ハチの世話をするタイミングが悪かったのか怒つていなくなりました。悔しいから勉強し直して、今は2回目のチャレンジ中です。

はちみつを売ろうと思ったら絶対に船浮の知名度が必要なんです。だから船浮音祭りがメディアに取り上げてもららえるきっかけになればという、いろんな思いはあります。観光にも使えるし。

今 では船浮生まれ、船浮育ちの青年は僕といとこのにいにい（兄貴）

を作つていましたけど、今は農家が一人もいないんですよ。村には豊年祭があつて、一番のお年寄りの楽しみで生きがいというか、祭りに一番力をです。

觀

光では、新石垣空港ブームにあやかって、川や滝へ行く日帰りツ

アーを始めました。いとこは船浮地図に炭鉱があつた頃の昔のことも紹介でくるガイドをして います。

僕はこれを仕事として成り立たせ

ぎるつて思いがあり怖いんです。世界遺産に匹敵するような自然はあるとは思うんですが、受け入れる体制ができていないので。

すね。
僕も

もツアーレの最後の5分はみんなでの漂流ゴミを拾うようにしてる。そういうことをしたい人たちがいます。

これからは、ここにいる人がこの島のよさを心から知っている、みんな楽しそうにしていることが大切になるとしましょうね。こうやって不便なところに住んでいる人たちが何でこんなに楽しそうに生きてるんだろう、輝い

と人を増やしたいという思いがありま
すね。

今のところ夏場の民宿は一日一、二組いるかなという感じで、全くない日もありますし、冬場だと本当に一、二週間お客様がゼロというのは普通です。

外国人の人も、年に四、五組ぐらい泊ま

光客を呼んでも、身動きがとれないからあの島は行かない方がいいよと言わ
れるだけですからね。

と言つてはいますが、自然を守るためにもしかしたらイノシシを獲るのに山に入れなくなることもあると思うし、何か一つ守ろうと思つて別のこととが制限されるみたいなことも多分にあると思うので、そこもちゃんと考えていかなければいけないと思つています。

にもなるから、自分もそんな人たちに囲まれて住んでみたいって思うようになるでしょう。

変わらないものに価値がついている時代なので、船浮は今からどんどん価値が出てくると思うし、僕も発信していきたいと思います。

ることはあります。言葉が通じなくて
も問題ないんですけど、やっぱり民宿に

にも申し訳ないんじやないかと思います。

202

一人はしやべれる人がいたほうがいいと、去年からおもてなしのために英語を移動時間とか使つて勉強し始めました。

あとはごみをどうにかしないといけない。ここまで来るヨーロッパの人

10



社長で師匠でもある父池田米蔵氏と

いけだ すぐる
池田 卓 プロフィール

1979年 沖繩・西表島船浮出身。

中学・高校は野球に没頭し、19歳の夏、島の芸能祭に参加したのをきっかけに本格的に芸能活動を開始。

2000年10月、「島の人よ」でCDデビュー。

2005年、「心色」で全国デビュー。

2007年、故郷・船浮にて音楽イベント「船浮音祭り」を企画。

2011年、活動拠点を船浮に移し、生まれ故郷から「島への思い」を発信している。